

## ボブベックのやさしい投資信託

第29回 株式型投資信託のリスク  
その5

今週もインデックスファンドの解説を続けましょう。

### (7-b)インデックスファンド

#### インデックスファンドの特徴

ポートフォリオがインデックスに連動していたとしても、基準価額はインデックスと同じようには動きません。第一に信託報酬が差し引かれます。第二に売買基準価額であれば税金が差し引かれます。第三に解約に対応するためにある程度の現金を持たなければなりません。ファンドの資産の5%を現金で持つとすると、インデックスに対する連動率は95%となってしまいます。第四に資金の流入や流出に対応して株式を売買しなければなりません。当然、株式の売買には手数料がかかります。その手数料は基準価額に反映するのです。第五にTOPIXファンドの場合全くTOPIXと同じ資産構成には出来ませんので、必ずずれが生じてきます。

つまりインデックスファンドとはインデックスに連動する事を目的に運用するのですが、確実に連動するわけではないのです。ただ、ファンドの資産総額が大きければ大きいほど、コストの影響は小さくなります。インデックスファンドの選択の際には、資産規模が一つの重要な指標になることは間違いありません。

#### インデックスファンドの魅力

ここまでの解説を読むと、「インデックスファンドはあまり魅力的ではないなあ。」とお感じになるも多いのではないのでしょうか。しかし、インデックスファンドには、長所も沢山あるのです。

#### (a) 分かりやすい

日経平均は、新聞やテレビのニュースで株価を伝える時、必ず使われるインデックスです。従って、日々のニュースを見てい

れば、自分の資産が増えたのか、それとも減ったのかが一目瞭然です。その上、日経平均が二万円になった時には、自分の資産は幾らになるのか、一万円になったらどれくらい自分の資産が減少するかが、簡単な計算で予測できます。ファンドマネージャーがアクティブに運用するファンドに比べ非常に分かりやすいファンドと言えるでしょう。

#### (b) 資産規模が大きい

インデックスファンドには資産規模が大きいファンドが数多くあります。資産規模が大きければ、前回も指摘したように、買付や解約による基準価額への影響が小さくなります。インデックスへの追随率も高まります。

#### (b) 効率的

インデックスというのは株式全体の動きを表すために開発されています。つまりインデックス自体が、良く分散されたポートフォリオなのです。ですから、インデックスに連動する事を目標にしたファンドも、当然、十分に分散されたポートフォリオになっているという事です。

#### インデックスを常に上回るのは難しい

最近は、「インデックスをこれだけ上回りました」と華々しく宣伝するファンドが多いようです。成長性の高い銘柄が物色されるような時には、ファンドマネージャーが運用するアクティブファンドが、良い成績を収める事が多いようです。しかしながら、いつもいつも、上手くいくとは限りません。実際、バブル期には、ファンドマネージャーが運用するファンドは、インデックスに大きく負けていたのが現実です。アメリカでも、毎年インデックスよりも良い成績をあげているファンドというのは殆どありません。従って、無駄に時間を費やしてアクティブファンドを選ぶよりも、インデックスと同じ成績を収めてくれるファンドを購入した方が良いと言う考え方もあります。

結局、インデックスファンドが良いのか、アクティブファンドが良いのかは、その人の考え次第。長所と短所を比較し、投資

家の考え方に合ったファンドを選びましょ  
う。